

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日：2020年1月17日

事業所名： こすもす

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	<ul style="list-style-type: none"> 指定基準以上の指導訓練室の確保 指導訓練室以外にも相談室・保護者室、屋外遊戯場を設けている 	<ul style="list-style-type: none"> はい 100 % いいえ 0 % どちらともいえない 0 % 	<ul style="list-style-type: none"> 利用児童(中高生)が約10人集まると狭いと感じる場面がある為、活動内容に応じて年齢別(学年別)に分けて行っている。 活動内容を戸外にしたり、室内でする活動にするなど、利用者がストレスを感じないように工夫している。
	2 職員の適切な配置	<ul style="list-style-type: none"> 基準以上の職員配置 ボランティアを積極的に受け入れている トイレや着替え補助は同性で行うように配慮している 	<ul style="list-style-type: none"> はい 100 % いいえ 0 % どちらともいえない 0 % 	<ul style="list-style-type: none"> 現状維持
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	<ul style="list-style-type: none"> 施設内バリアフリー 車椅子用トイレの設置 玄関前のスロープの設置 	<ul style="list-style-type: none"> はい 83 % いいえ 0 % どちらともいえない 17 % 	<ul style="list-style-type: none"> 文字や絵カードでの掲示 声の大きさやより利用者主体で活動しやすい表示や予定表の種類を増やす 室内に手すりがない為、必要に応じて検討していく。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	<ul style="list-style-type: none"> 毎日清掃実施 定期的な玩具・設備の消毒や安全点検 定期的な玩具・本等の入れ替え 	/	<ul style="list-style-type: none"> 細かい部分の清掃を行う意識を設けるため、環境整備チェック表に清掃分野を細分化する
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	<ul style="list-style-type: none"> 人事評価制度の活用(年2回) 	/	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な会議や業務改善に対する振り返り・意見交換を継続していく 日ごろから職員間で相談しやすい職場環境を心がける。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	<ul style="list-style-type: none"> 現在外部評価を受けていない 	/	<ul style="list-style-type: none"> 第三者評価の受診を検討する
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な研修案内・参加実施 外部講師による研修(法人全体で年3回) 内部研修(月1回) 	/	<ul style="list-style-type: none"> 現状維持 研修報告会の充実を目指す 内部研修の内容を改善する

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス等利用計画とアセスメント用紙から個別支援計画を作成。アセスメントの記入は利用者の代理として保護者が行う為、記載された内容と日々の姿を照らし合わせ、客観的に分析するようにしている ・定期的なモニタリングの実施 ・相談支援事業所や他事業所との情報交換 	<ul style="list-style-type: none"> ・はい 100 % ・いいえ 0 % ・どちらともいえない 0 % 	・現状維持	
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・主に集団活動を利用している子どもたちが多い。 ・個別活動と集団活動の両方を利用している利用者には必要に応じて各の目標設定がある。 	/		<ul style="list-style-type: none"> ・今後も相談支援事業所、保護者と確認をしながら進めていく。 ・個別活動で行った内容を集団活動の中で取り入れるよう、専門職と話し合い、活動や支援計画内容にも記載していく。
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画に記載 	<ul style="list-style-type: none"> ・はい 100 % ・いいえ 0 % ・どちらともいえない 0 % 	・今後も利用計画を基に本園で実施できる内容を記載と説明を行っていく	
適切な支援の提供	4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に沿った支援の実施を行っている ・支援計画会議の実施とモニタリング時の会議により支援の見直しを行っている 	/		・継続していく
	5 チーム全体での活動プログラムの立案	<ul style="list-style-type: none"> ・各職員が季節に応じた活動や利用者の興味関心や課題に応じた内容から活動内容を立案し、毎月活動内容が偏らないよう、全体での話し合い、プログラムの実施という流れになっている。 	/		・現状評価の継続と共に本園独自のアンケート結果による希望や改善点についての実施の継続も行っていく
	6 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の活動に応じて課題を設定し、その時期に合わせて区別し、活動に取り組んでいる ・基本的には平日で行い、月に1回の土曜日を開催する月もある。長期休暇の時間は平日と同様である。 	/		<ul style="list-style-type: none"> ・長期休暇の長時間利用の希望も多いが、児童発達支援事業を行っていることから、時間の改善を早急に対応することは難しい。 ・現在の利用時間の中で利用者が満足と納得できる活動を提供していくよう努めていく
	7 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・固定化している活動と月ごとで変わる活動内容がある。 ・固定化された活動内容からの利用者の変化を評価を行ったり、内容を全て変えると利用者にとっての負担を考慮しモールステップで内容を変化しつつも、新しい活動内容にも取り組んでいる。 ・週ごとで活動内容が変わるようにし、静と動の組み合わせがバランスよくなるように工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はい 100 % ・いいえ % ・どちらともいえない % 	・現状評価の継続	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
の提供(続き)	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	・支援開始前の活動内容・流れを確認 ・利用者の個々に応じた支援の確認 ・送迎サービスの実施により、職員全体でできないこともあるが、送迎サービス後に確認内容の報告を行っている。	・現状維持
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	・各職員が気づいた点を話し合い、共有している。送迎等で参加できない職員がいない場合も話し合った内容の報告を共有している。 ・外出プログラムや土曜日プログラム等の振り返り時間の確保はあるが、平日の活動の振り返りを充実できていない ・専門職(音楽療法・言語聴覚士等)の活動後に支援の確認や集団内での関わり方の指導	・現状評価の維持 ・外出プログラムや土曜日プログラム同様、平日の活動の振り返りの充実を改善していく。
	10	日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	・日々の記録内容は、利用者の出来なかったことや出来るようになったこと、取り組む姿勢、以前と比べた様子、その日の機嫌や体調管理なども記入し、支援に繋げている ・利用者の些細な変化汲み取ることを心がけている	・現状評価の継続
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	・定期的なモニタリングの実施 ・必要に応じて相談支援事業所や支援事業者との支援者会議 ・評価時期が分かりづらい	現状評価の継続 ・モニタリング評価時期が見やすくなるように一覧表の作り直しを行う ・定期的以外のモニタリングの必要性の判断が難しいと感じるときもあるので、随時相談支援事業所と密に連携を図っていく
	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へ参画	・児童発達支援管理責任者が一括で参画 ・上記の者が参画できない場合も、保育現場に入っている職員が参画できるようにしている	・現状評価の継続
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	・現在契約者はいない	・今後、契約する際は、情報共有を行い、各機関と連絡体制を整えていきたいと考えている
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	・現在契約者はいない	・今後、契約する際は、情報共有を行い、各機関と連絡体制を整えていきたいと考えている

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
関係機関との連携	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	・相談支援事業所からの情報提供 ・送迎サービスの利用者からは、学校(担当教諭)からの情報共有		・支援者会議で情報共有を行うことはあるが、他機関から支援者会議に参加できない場合もある為、その場合は他機関への連絡調整を図っていくことを継続していく。
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	・現在卒園生がいないため、項目の内容は実施していない		・今後、卒業生が障害福祉サービス事業所等へ移行する際に情報共有を行っていく。 ・就労移行支援や就労支援などの障害福祉サービス事業所についても理解することに努める。
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	・児童発達支援センター主催の研修に参加 ・各事業所の取り組みから助言や参考にさせてもらうこともある		・現状評価の継続 ・専門機関の研修案内を増やす
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	・室外活動の際に地域の子どもたちと会う機会はありますが、深くかかわることはない。	・はい 39 % ・いいえ 0 % ・どちらとさえない 61 %	・時間の都合上、平日での交流は難しいが、長期休暇や土曜日などを利用して児童館や放課後児童クラブとの交流機会を考えていきたい。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	事業所ではないが、法人主催による地域交流を行い、利用者の参加や地域住民を招待するイベントを行っている		・現状評価の継続 ・地域に開かれた事業の運営を目指し、地域からのボランティアの受け入れや本園で行事開催を検討していく
	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	・契約時に一緒に読み合わせを行っている ・不明な場合は契約後も説明を行う ・利用者負担等分かりづらい点も多い為、契約書等とは別紙で説明を行えるようにする	・はい 100 % ・いいえ 0 % ・どちらとさえない 0 %	・現状評価の継続
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	・計画書を読み、保護者と一緒に確認を行っている	・はい 100 % ・いいえ % ・どちらとさえない %	・現状評価の継続

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
保護者への説明責・連携支援	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアレント・トレーニングという名の活動は行っていない。 ・保護者が参加しやすい講演会の案内を適時行っている。 ・相談日を設け、利用時以外にも保護者が相談しやすいような環境づくりに努めている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ペアレント・トレーニング支援の講習会を検討していく ・職員の研修受講により、職員から保護者への支援の向上を目指す ・親子や家族で参加する活動を計画し、日ごろの療育活動や子育てについて職員といっしょに考えていく機会を設ける。
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・利用時の引継ぎ、連絡帳、個人記録等にて利用者の状況を知らせ、共通理解を図っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・はい 100 % ・いいえ 0 % ・どちらとさえない 0 % 	ご家族に応じて日々の多忙さにより引継ぎ内容や記録の内容がご自宅で継続できない場合がある為、保護者からの相談受け入れ以外に、本園から保護者に声をかけ、困りごとや共通理解の徹底へと目指したい。
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・相談依頼があった場合は速やかに対応している。 ・保護者にとって適切に応じることができているかは分からないが、悩みや相談を聞いて一緒に解決策を考えている。 ・職員が一人で判断できない場合は、他職員と話し合った後、保護者へ助言している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はい 94 % ・いいえ 0 % ・どちらとさえない 6 % 	・定期的な面談会の検討
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	<ul style="list-style-type: none"> ・父母の会などの活動が現在無い ・保護者会の開催も現在は未実施である ・保護者同士が話ができるように送迎時間までの待ち時間に話をする場を設けたり、保護者室にて団欒しやすいようにしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・はい 33 % ・いいえ 28 % ・どちらとさえない 39 % 	家族のニーズを調査し、調査内容に応じて実施の検討を行う
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者室に苦情・相談ボックスの設置 ・契約時に対応体制の設備を説明 ・苦情時の対応も苦情担当者に報告し速やかに対応するとともに、内容に応じては法人内でも話し合うようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はい 78 % ・いいえ 0 % ・どちらとさえない 22 % 	・現状評価の継続
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて絵カードやタイムスケジュールの提示の方法に工夫する ・保護者と相談をして読みやすい文字のフォントや文字の大きさなども配慮している ・ご家族に応じては電話のみの連絡以外に書面での連絡体制を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はい 100 % ・いいえ 0 % ・どちらとさえない 0% 	・現状評価の継続

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	<ul style="list-style-type: none"> ・会報等はないが、毎月予定表を全利用者に配布している ・予定表内に活動概要や行事の際の連絡体制なども保護者にその都度発信している ・以上の内容はホームページにも掲載している 	<ul style="list-style-type: none"> ・はい 83 % ・いいえ 0 % ・どちらとさえない 17 % 	・現状評価の継続
	10 個人情報の取扱いに対する十分な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関にて個人情報保護法の掲示 ・個人情報の取り扱いについて契約時にも説明と同意書を得ている。 ・発達検査等の取り寄せや研修での事例発表についてはその都度再度、個人情報の取り扱いについて説明と確認を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・はい 100 % ・いいえ 0 % ・どちらとさえない 0 % 	・現状評価の継続
非常時等の対応	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・職員に周知できるようにマニュアルは策定している。 ・避難先や警報発令時の対応等は玄関に提示している。 ・保護者室に避難確保計画(洪水)の冊子を配置 ・流行時に応じた感染症のお知らせや対応の掲示。 ・上記以外のマニュアルの策定、訓練は不十分さがまだある為、周知方法を考えていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はい 61 % ・いいえ 6% ・どちらとさえない 33 % ・マニュアルはあるだろうが、見ていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状評価の継続 ・十分でないマニュアル(防犯や感染症)や訓練の周知を速やかに徹底していく ・避難時の対応について保護者に案内を配布した(1月中旬)今後も周知の徹底方法を見直していく
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・年内に避難や救出等の訓練は行えていない。様々な危険を予測していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はい 73 % ・いいえ 0 % ・どちらとさえない 26 % ・実施日に参加していない 又は実施を知らない 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度内に避難食の作り方や避難訓練を実施予定である。 ・利用者の中には非常ベルの音の大きさや普段と違う流れにパニックを起こす利用者も予想されるため、スモールステップの流れを通じて避難訓練を考えていく。
	3 虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は代表の職員のみ虐待防止の研修に参加した。 ・研修報告にて全職員に周知している 		<ul style="list-style-type: none"> ・現状評価の継続 ・全職員が外部研修にも参加できる体制を整えることを目指す ・1年に1回職員間で虐待チェックリストを行う

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
心	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	・現段階で身体拘束を行っていない ・契約書内(第4条の2)に記載	・契約時に身体拘束を行わないことを記載し保護者に説明を行っている ・今後利用中に利用者の危険や周囲の危険が予測される場合は保護者に説明し、個別支援計画に記載後、保護者の同意を得るようにしていく。
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	・子どもに応じたアレルギー反応の症状を周知していると共に、医師の指示書(エピペンの使い方等)を全職員が確認している ・活動内容に応じて保護者と材料、レシピ、献立表の確認を行っている。	・現状評価の継続
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	事例集ではないが、ヒヤリハットとされる事案などが出た際は会議や回覧などで職員が周知する環境を整えている	・現状評価の継続 ・ヒヤリハット事例集の作成ができていないため、速やかに対応し、周知を目指す

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日:2020年1月17日

事業所名: こすもす

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	・指定基準以上の指導訓練室の確保 ・指導訓練室以外にも相談室・保護者室、屋外遊戯場を設けている	・はい 100 % ・いいえ 0 % ・どちらとしない 0 %	・現体制の維持
	2 職員の適切な配置	・基準以上の職員配置 ・ボランティアを積極的に受け入れている	・はい 100 % ・いいえ 0 % ・どちらとしない 0 %	・現体制の維持
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	・施設内バリアフリー ・車椅子用トイレの設置	・はい 100 % ・いいえ 0 % ・どちらとしない 0 %	・おもちゃ箱や棚などを文字や絵カードでの掲示 ・毎日のスケジュールをホワイトボードに提示 (利用者に応じて個別のスケジュールを用意し持ち運びできるようにしたり、スケジュールを細分化し個別対応できるようにしている)
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	・毎日清掃実施 ・定期的な玩具・設備の消毒や安全点検 ・定期的な玩具・本等の入れ替え	・はい 100 % ・いいえ 0 % ・どちらとしない 8 % ・細かい部分の清掃を行っていく必要がある	細かい部分の清掃を行う意識を設けるため、環境整備チェック表に清掃分野を細分化する
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	・人事評価制度の活用(年2回)		・定期的な会議や業務改善に対する振り返り・意見交換を継続していく ・日ごろから職員間で相談しやすい職場環境を心がける。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	・現在外部評価を受けていない		・第三者評価の受診を検討する
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	・定期的な研修案内・参加実施 ・外部講師による研修(法人全体で年3回) ・内部研修(月1回)		・現状維持 ・研修報告会の充実を目指す ・内部研修の内容を改善する

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	<ul style="list-style-type: none"> サービス等利用計画とアセスメント用紙から個別支援計画を作成。アセスメントの記入は利用者の代理として保護者が行う為、記載された内容と日々の姿を照らし合わせ、客観的に分析するようにしている 定期的なモニタリングの実施 相談支援事業所や他事業所との情報交換 	<ul style="list-style-type: none"> はい 100 % いいえ 0 % どちらとしない 0 % 	<ul style="list-style-type: none"> 現状維持
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	<ul style="list-style-type: none"> 利用者に応じて個別活動と集団活動の目標を設定している為、必ずしも全員が両方の目標を設定しているとは限らない 		<ul style="list-style-type: none"> 今後も相談支援事業所、保護者と確認をしながら進めていく。 個別活動で行った内容を集団活動の中で取り入れるよう、専門職と話し合い、活動や支援計画内容にも記載していく。
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	<ul style="list-style-type: none"> 個別支援計画に記載 	<ul style="list-style-type: none"> はい 100 % いいえ 0 % どちらとしない 0 % 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も利用計画を基に本園で実施できる内容の記載と説明を行っていく
	4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	<ul style="list-style-type: none"> 計画に沿った支援の実施 支援計画会議の実施とモニタリング時の会議により支援の見直しを行っている 	<ul style="list-style-type: none"> はい 100 % いいえ 0 % どちらとしない 0 % 	<ul style="list-style-type: none"> 現状評価の継続
	5 チーム全体での活動プログラムの立案	<ul style="list-style-type: none"> 各職員が季節に応じた活動や利用者の興味関心や課題に応じた内容から活動内容を立案し、毎月活動内容が偏らないよう、全体での話し合い、プログラムの実施という流れになっている 		<ul style="list-style-type: none"> 現状評価の継続と共に本園独自のアンケート結果による希望や改善点についての実施の継続も行っていく
	6 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	<ul style="list-style-type: none"> 基本的に平日に行っている 活動内容に応じて時間の変更を行うこともある(遠足等) 		<ul style="list-style-type: none"> 土曜日の活動や幼稚園・保育園終了後に利用したい等の希望も多いが、多機能事業所の為(放課後等デイサービス事業を行っている)、時間の改善を早急に対応することは難しい。 保護者のニーズを理解すると共に、現在の利用時間の中で利用者が満足と納得できる活動を提供していくよう努めていく

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供(続き)	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・固定化している活動と月ごとで変わる活動内容がある。 ・固定化された活動内容からの利用者の変化を評価を行ったり、内容を全て変えると利用者にとっての負担を考慮しモールステップで内容を変化しつつも、新しい活動内容にも取り組んでいる。 ・活動内容は静と動の組み合わせがバランスよくなるように設定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はい 100 % ・いいえ % ・どちらとさえない % 	・現状評価の継続
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・支援開始前の活動内容・流れを確認 ・利用者の個々に応じた支援の確認 ・送迎サービスの実施により、職員全体でできないこともあるが、送迎サービス後に確認内容の報告を行っている。 		・現状維持
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	<ul style="list-style-type: none"> ・各職員が気づいた点を話し合い、共有している。送迎等で参加できない職員がいない場合も話し合った内容の報告を共有している。 ・外出プログラムや土曜日プログラム等の振り返り時間の確保はあるが、平日の活動の振り返りを充実できていない ・専門職(音楽療法・言語聴覚士等)の活動後に支援の確認や集団内での関わり方の指導 		<ul style="list-style-type: none"> ・現状評価の維持 ・外出プログラムや土曜日プログラム同様、平日の活動の振り返りの充実を改善していく。
	10	日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の記録内容は、利用者の出来なかったことや出来るようになったこと、取り組む姿勢、以前と比べた様子、その日の機嫌や体調管理なども記入し、支援に繋げている ・利用者の些細な変化汲み取ることを心がけている 		・現状評価の継続
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的なモニタリングの実施 ・必要に応じて相談支援事業所や支援事業者との支援者会議 ・評価時期が分かりづらい 		<ul style="list-style-type: none"> ・現状評価の継続 ・モニタリング評価時期が見やすくなるように一覧表の作り直しを行う

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
関係機関との連携	1 子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へり参画	・児童発達支援管理責任者が一括で参画 ・上記の者が参画できない場合も、保育現場に入っている職員が参画できるようにしている		・現状評価の継続
	2 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	・現在支援していない		・今後、契約する際は、情報共有を行い、各機関との連絡体制を整えていきたいと考えている
	3 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	・現在支援していない		・今後、契約する際は、情報共有を行い、各機関と連絡体制を整えていきたいと考えている
	4 児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	・相談支援事業所からの情報提供 ・支援者会議の参加依頼 ・本園の見学の受け入れ ・保護者の承諾を受け、電話での情報共有や支援の取り組みを情報提供(依頼する場合もある)		・支援者会議で情報共有を行うことはあるが、他機関から支援者会議に参加できない場合もある為、その場合は他機関への連絡調整を図っていくことを継続する。 ・特に年長児は小学校入学に向けての情報共有を行うことが多い。
	5 放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供			
	6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	・児童発達支援センター主催の研修に参加している ・各事業所の取り組みから助言や参考にさせてもらうこともある		・現状評価の継続 ・専門機関の研修案内を増やす
	7 児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	・定期的ではないが地域の幼稚園が開催している園庭開放へ参加。しかし、交流までできていない。 ・図書館で開催されているお話の会の参加(月1回)	・はい 57 % ・いいえ % ・どちらとさえない 43 %	・現状評価の維持 ・来年度から法人内の保育園を含め他機関との交流機会を増やしていく予定である

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	事業所ではないが、法人主催による地域交流を行い、利用者の参加や地域住民を招待するイベントを行っている		・現状評価の継続 ・地域に開かれた事業の運営を目指し、地域からのボランティアの受け入れや本園で行事開催を検討していく	
保護者への説明責・連携士	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	<ul style="list-style-type: none"> ・はい 100 % ・いいえ 0 % ・どちらとさえない 0 % 	・現状評価の継続	
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	<ul style="list-style-type: none"> ・はい 100 % ・いいえ % ・どちらとさえない % 	・現状評価の継続	
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアレント・トレーニングという名の活動は行っていない ・保護者が参加しやすい講演会の案内を適時行っている ・週1回の親子療育を設け、保護者と利用者への関わりについて活動を通して共に考える機会を設けている ・相談日を設け、利用時以外にも保護者が相談しやすいような環境づくりに努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はい 71 % ・いいえ 0 % ・どちらとさえない 29 % 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアレント・トレーニング支援の講習会を検討していく ・職員の研修受講により、職員から保護者への支援の向上を目指す
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	・利用時の引継ぎ、連絡帳、個人記録等にて利用者の状況を知らせ、共通理解を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・はい 100 % ・いいえ 0 % ・どちらとさえない 0 % 	ご家族に応じて日々の多忙さにより引継ぎ内容や記録の内容がご自宅で継続できない場合がある為、保護者からの相談受け入れ以外に、本園から保護者に声をかけ、困りごとや共通理解の徹底へと目指したい。
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・相談依頼があった場合は速やかに対応している。 ・保護者にとって適切に応じることができているかは分からないが、悩みや相談を聞いて一緒に解決策を考えている。 ・職員が一人で判断できない場合は、他職員と話し合った後、保護者へ助言している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はい 100 % ・いいえ 0 % ・どちらとさえない 0 % 	・定期的な面談会の検討

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
支援	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	<ul style="list-style-type: none"> ・はい 57 % ・いいえ 14 % ・どちらともいえない 14 % ・分からない 15 % 	家族のニーズを調査し、調査内容に応じて実施の検討を行う
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・はい 100 % ・いいえ 0 % ・どちらともいえない 0 % 	・現状評価の継続
	8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・はい 100 % ・いいえ 0 % ・どちらともいえない 0 % 	・現状評価の継続
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	<ul style="list-style-type: none"> ・はい 86 % ・いいえ 0 % ・どちらともいえない 14 % 	・現状評価の継続
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・はい 100 % ・いいえ 0 % ・どちらともいえない 0 % ・分からない 0 % 	・現状評価の継続

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	<ul style="list-style-type: none"> 職員に周知できるようにマニュアルは策定している。 避難先や警報発令時の対応等は玄関に提示している。 保護者室に避難確保計画(洪水)の冊子を配置 流行時に応じた感染症のお知らせや対応の掲示。 上記以外のマニュアルの策定、訓練は不十分さがまだある為、周知方法を考えていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> はい 86 % いいえ 0 % どちらとさえない 14 % 分からない 8 % 	<ul style="list-style-type: none"> 現状評価の継続 十分でないマニュアル(防犯や感染症)や訓練の周知を速やかに徹底していく 避難時の対応について保護者に案内を配布した(1月中旬)今後も周知の徹底方法を見直していく。
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	<ul style="list-style-type: none"> 行っているが、様々な危険を予測していく必要がある為、回数を増やしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> はい 71% いいえ 0 % どちらとさえない 14 % 分からない 15 % 実施日に参加していない 又は実施を知らない 	<ul style="list-style-type: none"> 年度内に保護者とともに訓練を実施予定である。 利用者の中には非常ベルの音の大きさや普段と違う流れにパニックを起こす利用者も予想されるため、スモールステップの流れを通じて避難訓練を考えていく。
	3	虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は代表の職員のみ虐待防止の研修に参加した。 研修報告にて全職員に周知している 		<ul style="list-style-type: none"> 現状評価の継続 全職員が外部研修にも参加できる体制を整えることを目指す 1年に1回職員間で虐待チェックリストを行う
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	<ul style="list-style-type: none"> 現段階で身体拘束を行っていない 契約書内(第4条の2)に記載 		<ul style="list-style-type: none"> 契約時に身体拘束を行わないことを記載し保護者に説明を行っている 今後利用中に利用者の危険や周囲の危険が予測される場合は保護者に説明し、個別支援計画に記載後、保護者の同意を得るようにしていく。
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	<ul style="list-style-type: none"> 子どもに応じたアレルギー反応の症状を周知していると共に、医師の指示書(エピペンの使い方等)を全職員が確認している 活動内容に応じて保護者と材料、レシピ、献立表の確認を行っている。 		<ul style="list-style-type: none"> 現状評価の継続
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 事例集ではないが、ヒヤリハットとされる事案などが出た際は会議や回覧などで職員が周知する環境を整えている 		<ul style="list-style-type: none"> 現状評価の継続 ヒヤリハット事例集の作成ができていないため、速やかに対応し、周知を目指す